

標準委員会 システム安全専門部会 統合的安全性向上分科会
第 36 回統合的安全性向上分科会議事録

1. 日 時 2022 年 1 月 24 日 (月) 13:30~16:00

2. 場 所 WebEX による Web 会議

3. 出席者 (敬称略)

(出席委員) 松本副主査 (MRI リサーチ・アソシエツ), 倉本幹事 (NEL), 石崎委員 (東電 HD), 鈴木委員 (JANSI), 曾根田委員 (日立 GE), 高橋委員 (MHI), 竹内委員 (東芝 ESS), 中川委員 (原電), 成宮委員 (JANSI), 藤井委員 (関電), 村上委員 (東大;遅れて出席), 山田委員 (中部電), 与能本委員 (JAEA) (13 名)

(常時参加者) 疇津 (九州電), 新谷 (北陸電), 岩谷 (電中研), 大家 (NEL), 小野寺 (MRI), 亀山・松田 (電源開発), 粥川・遠山・畑・向中野 (北海道電), 櫻井 (原電), 真安 (東北電), 関 (原電エンジ), 田門・中村 (関電), 神野 (四国電;西紋代理), 山本 (原燃), 吉岡 (中国電) (19 名)

(傍聴者) 大河内・下白石 (九州電), 馬見塚 (NEL) (3 名)

4. 配布資料

S3SC36-1 第 35 回統合的安全性向上分科会議事録 (案)

S3SC36-2 統合的安全性向上分科会 主査の互選について

S3SC36-3-1 IRIDM 標準英訳版 作成の進め方

S3SC36-3-2 IRIDM 標準英訳版 クロスチェック コメント対応表

S3SC36-3-3 IRIDM 標準英訳版 共有すべき用語・表現

S3SC36-3-4 “原子力発電所の継続的な安全性向上のためのリスク情報を活用した統合的意思決定に関する実施基準：2019” 英訳版 (専門部会報告版：案)

S3SC36-4-1 PSR+指針改定検討の進め方

S3SC36-4-2 PSR+改定標準案に対する分科会コメント対応表

S3SC36-4-3 PSR+改定標準案 (2022/1/24 時点)

S3SC36-4-4 PSR+改定に向けた SSG-25 の解釈確認・IAEA への確認点等の検討

S3SC36-5 統合的安全性向上分科会検討スケジュール

S3SC36-6 システム安全専門部会 標準策定 5 年計画(2022 年度版) (統合的安全性向上分科会関連) (案)

参考資料：

S3SC36-参考 1 統合的安全性向上分科会委員名簿

5. 議事内容

倉本幹事より、議事に先立ち、開始時点で委員 15 名中 12 名が出席しており、分科会成立に必要な定足数を満足している旨が報告された。

(1) 資料確認、前回議事録の確認 (S3SC36-1)

議事次第に基づき、配布資料の確認を行った。

倉本幹事より、資料 S3SC36-1 を用いて、第 35 回分科会議事録（案）の確認を行い、確定議事録とすることが承認された。

(2) 人事について (S3SC36-2, S3SC36-参考 1)

分科会に先立ち、成宮主査より主査退任の申し出があり、それに伴う分科会主査の互選を行った。

倉本幹事より、資料 S3SC36-2 を用いて、分科会主査の互選の方法が説明され、主査の互選が実施された。

投票の結果 13 票中、11 票が村上委員、2 票が松本副主査に投票され、村上委員が統合的安全性向上分科会の主査に選任された。

(3) IRIDM 標準英訳版検討に関する審議 (S3SC36-3-1～S3SC36-3-4)

倉本幹事より、資料 S3SC36-3-1～S3SC36-3-4 を用いて、IRIDM 標準英訳版検討状況につき説明があり、審議を行った。

主な説明、議論は、以下のとおり。

<IRIDM 標準英訳版（案）>

- ・ 英訳版（2 次案）のクロスチェック結果を検討チームごとで反映し、体裁整理を行ったうえで、資料 S3SC36-3-4 の標準英訳版（専門部会報告版：案）をまとめた。

<クロスチェックのコメント対応確認>

倉本幹事より、資料 S3SC36-3-2 を用いて、クロスチェックでの各コメントの対応状況の説明があり、審議を行った。

- ・ 資料 S3SC36-3-2 P.2 No.1~3（上から 3 番目~5 番目のコメント）
 - Q：コメント内容が、資料 S3SC36-3-4-2 に適切に反映されていない。また、コメント対応表に記載された、資料 S3SC36-3-2 P.2 No.1 の”be as-built”の”be”は不要であり、適切に修正することが必要。
 - A：確認して適切に反映する。
 - Q：コメント対応リストに挙げられた修正以外に、附属書 F F.5 においてコメント（responsibilities of each process “should” be clarified.と“should”を追加）を挙

げたがコメントリストになく、資料 S3SC36-3-4-2 においても反映されておらず、適切に修正することが必要。

A：確認して適切に反映する。

- 資料 S3SC36-3-2 P.5 No.1（上から 6 番目のコメント）

Q：環境依存フォントの使用可否については、学会事務局に確認して欲しい。

A：過去の PLM 標準英訳版も環境依存フォントが使われているので問題ないと考えているが学会事務局にも確認する。

- 資料 S3SC36-3-2 P.5 No.5（上から 10 番目のコメント）

Q：重複行があったので削除すべきとのコメントであるが、重複部分の記載表現が少し異なっているため、重複部分のどちらを削除すべきかはしっかり確認して欲しい。

A：再度確認し、適切に削除する。

- 資料 S3SC36-3-2 P.5 No.6（上から 11 番目のコメント）

C：確認した範囲では、附属書 T（参考）の参考文献【1】のみが、元論文に英語タイトルがあり、その英語タイトルが使われていなかったもの。

A：この論文以外の参考文献においても同様のことがないか確認したが、他には該当のものはなかった。

- コメント対応リストの記載以外

C：分科会開催間際に、本体 7.3 のクロスチェックのコメントがあったが、反映未であり、最終版に確実に反映を行う。

<クロスチェック以外の修正内容確認>

倉本幹事より、実施した体裁整理の内容について、標準冒頭に以下の記載を追加した等の説明があった。

- Foreword
- Establishment of AESJ Standards
- Role of the AESJ Standards
- System Safety Technical Committee
- Risk Technical Committee
- ENDORSEMENT OF AESJ STANDARDS RESPONSIBLE BODIES

この内、Establishment of AESJ Standards 以降の記載については、学会事務局にて英訳を用意してもらうようにする。

Q：Supplement for the English version of the Standard（標準英訳版における注記）については、附属書（参考）の該当の箇所のみで記載していることとしているが、そのような記載をしていることにつき、全体的にまえがきで記載する必要があるのではないか。

A: 全体的な記載は、まえがきの **Remarks** の記載のみでの対応としている。専門部会、標準委員会への報告については、このままで報告して、部会、委員会において意見・コメント等があれば、それに応じて対応を考える。

本日の審議結果を反映したものを、システム安全専門部会に本報告することが了承された。

(4) PSR+指針改定に関する審議 (S3SC36-4-1～S3SC36-4-4)

倉本幹事より、資料 S3SC36-4-1～S3SC36-4-4 を用いて、PSR+標準改定の検討状況につき説明があり、審議を行った。

主な説明、議論は、以下のとおり。

<PSR+標準改定の検討状況の確認>

PSR+標準の改定につき、1次案の検討は完了し、1次案に対する分科会コメントをまとめ、今後の対応方針を検討している状況。IAEA との議論資料についてもとりまとめたので、本日の分科会にて確認、審議を行う。加えて、国内外の新知見の収集・整理、また技術レポートを標準に取り込む対応につき、今後検討を進めていく。

5月のシステム安全専門部会での中間報告を目指していく方針。

<1次案に対する分科会コメント対応方針の確認>

資料 S3SC36-4-2 をもとに、第35回分科会で対応できていなかったもの、第35回分科会以降に挙げたコメントの対応状況の説明があり、審議を行った。

- ・ コメント No.39, 41, 46, 47, 54, 55 の対応方針の説明があった。

Q: 進捗状況が△のものは、どのように対応していくのか。

A: PSR+検討チームにて、対応を検討して改定標準への反映を検討していく予定。

Q: コメント No.41 に対して、引用規格として2章に記載すべきではないのか。

A: 現状改定案では、本体記載の末尾に参考文献として提案したが、「2章 引用規格」に記載する様にし、参考文献からは削除する。

<IAEA との議論資料の確認>

資料 S3SC36-4-4 をもとに、IAEA との議論内容につき説明があった。

審議の結果、議論資料につき承認された。

- ・ 第35回分科会で提示された日本語資料 S3SC35-4-6 が再度見直され、英訳したものが作成された。

C: 「添付資料2」中、資料表紙(日本語)において“Periodic”の“o”が抜けている。

C: IAEA との議論時期はいつを想定していくのか。5月のシステム安全専門部会への中間報告においては、IAEA との議論は実施済の上で、議論の結果から改定標

準に反映する内容も含めて説明するのか、あるいは、反映する予定の内容を説明するようにしなければならないと思う。

A： 拝承。その想定で進めていくようにする。

C： IAEA との議論状況や検討進捗から、システム安全専門部会への中間報告は、複数回必要な可能性もあるのではないか。

A： 5月のシステム安全専門部会にて中間報告を行い、その後8月に最終報告としたいが、IAEA との議論進捗や専門部会での反応によってはその可能性もある。

(5) 今後の予定（分科会検討スケジュールの確認）（S3SC36-5,6）

倉本幹事より、資料 S3SC36-5,6 を用いて、分科会の今後の予定の説明があり、確認を行った。

IRIDM 標準英訳版については、1/25 に PRA 品質確保分科会にて分科会審議を行ったうえで、2/2 システム安全専門部会、2/9 リスク専門部会に本報告を行う。

PSR+標準改訂については、IAEA との議論、2次案検討を進め、5月のシステム安全専門部会への中間報告を目指す。

標準策定 5 ヶ年計画の本分科会関係分につき内容の説明があり、審議の結果、分科会承認を得た。

C：“国際的協調部分”に IAEA との議論を挙げ、活動をアピールするのがよい。

A： 拝承。記載を追加したうえで、専門部会に提出を行う。

<次回分科会について>

次回分科会（第 37 回）については、3月上旬から中旬目途で、村上主査の都合を確認する等を行ったうえで別途調整することとなった。

以 上